

## 令和7年度 東淀中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

### 調査結果から

#### 【成果と課題】

##### ○全国学力・学習状況調査結果

###### <国語>

平均正答率が全国の54.3%に対し48%とし、対全国比は今年度88%(対大阪市は92%)であり、令和6年度(現高校1年)の対全国比は93%であった。内容としては「話すこと、聞くこと」領域が-4.0ポイントから-7.6ポイント。「書くこと」は-5.6ポイントから-5.9ポイント。「読むこと」は-5.3ポイントから-6.1ポイントとなっている。

令和6年度から比較して、全て下回っている。  
また、平均無解答率は10.3%(全国6.7%)であり、令和6年度の4.5%(全国は3.9%)と比較して、取り組みに対する意欲も低下している。  
しかし、令和5年度は平均正答率が、対全国比87%。内容としては「話すこと、聞くこと」領域が-9.4ポイント。「書くこと」は-6.6ポイント。「読むこと」は-11.4ポイントであった。

また、平均無解答率は9.8%(今年度は10.3%)で全国は4.6%(今年度は6.7%)となり、全体的には上回っている。

###### <数学>

平均正答率が全国の48.3%に対し39%とし、対全国比が81%(対大阪市は85%)であり、令和6年度の対全国比の99%からは大きく下回っている。内容としては全国と比較して、「数と式」領域において、-2.ポイントから-10.8ポイント。また、「図形」領域が+0.1ポイントから、-7.0ポイント。「関数」領域も-0.9ポイントから-10.1ポイント、「データの活用」領域も-0.2ポイントから-10.4ポイントと全て下回っている。また、平均無解答率が16.7%(全国は10.6%)であり、令和6年度の13.3%(全国は11.3%)であることから、取り組みに対する意欲も低下している。しかし、一昨年度の令和5年度でみると、対全国比80%。「数と式」領域において、-7.9ポイント。「図形」領域が-8.2ポイント。「関数」領域も-10.3ポイント。「データの活用」領域も-15.3ポイントとなり、若干上回っている。また、平均無解答率は令和5年度が18.3%、全国は9.6%であり、取り組みに対する意欲も若干上回っている。

###### <理科>

理科においてはIRTスコアが、全国の503に対し、本校は447であり、対全国比は89%(対大阪市比は91%)であった。

##### ○チャレンジテスト(3年生)結果

###### <国語>

府平均64.2に対して、本校平均59.2となり、対府比92%となっている。昨年度(2年時)は89%であった。また、令和6年度(現高校1年)では97%である。得点分布では府と比較して全体的には同じ傾向であるが、60~64点と70~74点の割合が多く、75~100点の割合が低い。各領域の平均点を対府比でみると、「話すこと、聞くこと」が94%、「書くこと」が93%、「読むこと」が91%となり、全て下回っている。

###### <社会>

府平均51.2に対して、本校平均47.5となり、対府比93%となっている。昨年度(2年時)は87%であった。また、令和6年度(現高校1年)では103%である。得点分布では府と比較して全体的には同じ傾向であるが、10~49点の割合が高い、70~100点の割合が全て下回っている。各領域の平均点を対府比でみると、「地理的分野」が95%、「歴史的分野」が90%となり、両方が下回っている。

###### <数学>

府平均53.9に対して、本校平均50.2となり、対府比93%となっている。昨年度(現高校1年)は98%であった。同学年(現3年)では89%であり、向上している。得点分布では、昨年度と同じように、府と比較して全体的には同じ傾向であるが、「のこぎり」のようにいびつな結果であり、75点以上の割合で府を下回っている傾向にある。各領域の平均点を対府比でみると、「数と式」が94%、「図形」が95%、「関数」が92%、「データの活用」が88%となり、全て下回っている。

###### <理科(B問題)>

府平均46.0に対して、本校平均39.7となり、対府比86%となっている。昨年度(現高校1年)は98%であった。しかし、同学年(現3年)では80%であり、向上している。得点分布では府と比較して、55点以上の割合が全て下回り、5~39点の割合が高い。  
各領域の平均点を対府比でみると、「エネルギー」が89%、「粒子」が93%、「生命」が82%、「地球」が90%となり、全て下回っている。

###### <英語>

府平均53.2に対して、本校平均41.7と78%となっている。昨年度(現高校1年)は91%であった。同学年(現3年)では81%であった。得点分布では府と比較し、5~39点の割合が高い。55点以上の割合が極端に低い。  
各領域の平均点を対府比でみると、「聞くこと」が85%、「読むこと」が79%、「書くこと」が72%となり、全て下回っている。

#### 【今後に向けて】

5教科において、大阪府の平均に対し、下回っている。これまでに基礎的・基本的な学力定着を目標としてきたが、大阪府平均に対する得点割合では7割に満たないが34.7%であった。特に理科(B問題)が43.7%、英語が54.8%と非常に厳しい結果となった。しかし、同一学年の経年でみると英語以外は改善されており、生徒の学習状況に応じたプリントを作成し、添削と助言を行ってきたことから、一定の改善は見られる。基礎的・基礎的な学力の定着には自学自習も必要不可欠となるので、デジタルドリルやアプリを活用し、家庭学習にもつなげ、積み重ねることで改善を目指している。授業外においては放課後学習やテスト前学習、長期休業期間学習を継続して活用していく。